



**PROFILE** 浜岡中学生徒会：浜岡中の全生徒で構成し、役員は、前列左から松本育也、黒田匡寛、和田菜、中列左から川口将人、宮本夏実、河原崎智恵理、佐藤弥生、後列左から桑内茂、藤井駿平、小林美穂、岸端悠の11人

福島仲間にもエールを送り続けたい

# 浜岡中学生徒会

## 福島に向けて出発

東日本大震災の影響により福島県会津若松市へ避難している大熊中の生徒と交流するため、3月21日、浜岡中学生徒会のメンバー11人とコミカレネットワーク御前崎の会などのボランティア団体役員らに乗せた大型バスが、浜岡中学校を出発した。

バスには、ふるさとの大熊町へ1日も早く帰って来れるようにとの思いが込められた生徒手作りのカエルのマスコット240個が積み込まれていた。4色のフェルトをハサミで切り、2枚重ねて縫い合わせた中に綿を詰め、目玉が糊付けされた可愛いカエルたち。1匹ずつに浜岡中の生徒たちの思いが綴られたメッセージカードが添えられていた。

## 大熊中学生徒らの今

福島県大熊町は、東京電力福島第一原発の事故で町全体が警戒区域に指定されているため、現在、町の機能を会津若松市に移している。大熊町

は、梨やキウイフルーツが特産の人口約1万1千人の小さなまちだが、昨年3月11日の震災以降、住民は町外へ避難を余儀なくされている。会津若松市内に設けられた仮校舎には、制服までも津波で流されてしまった生徒たちが私服で通学しているという。

## 友情の絆を深める

「遠く離れていても応援しているよ」、「ありがとう、また会えるといいね」。大熊中との交流会では、お互いの生徒が素直な気持ちを伝えあった。

仲の良い友達と離ればなれになったり、好きな部活動ができないという状況にあっても笑顔を忘れない大熊中の生徒に、浜岡中の生徒たちは驚かされた。「大熊中の生徒の精神力はすごい。みんな明るく元気で、僕たちの方が勇気をもらった。これからお互いの絆を深めていきたい」と生徒会長の黒田匡寛君は交流を振り返る。

友情を確かめ合った両校の生徒たち。お互いを思いやる優しい気持ちは、後輩たちにも受け継がれていく。